

## 令和6年度全国学力学習状況調査結果(小学校)

### 和光市教育委員会調査結果概要

#### ◆教科に関する調査結果

##### 〈小学校概要〉

平均正答率(単位%)

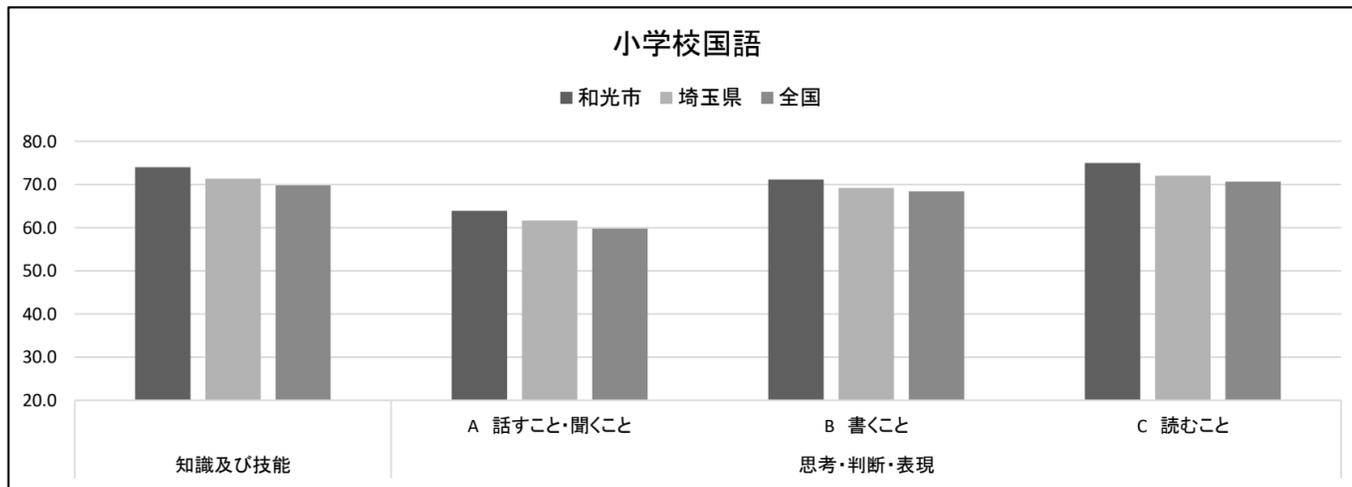
教科	和光市	埼玉県	全国	県差	全国差
国語	72.0	69.0	67.7	3.0	4.3
算数	67.0	64.0	63.4	3.0	3.6

・全教科で、県平均、全国平均を上回っている。

##### 〈小学校国語〉

平均正答率(単位%)

学習指導要領の領域等での区分	和光市	埼玉県	全国	県差	全国差	
知識及び技能	74.0	71.3	69.8	2.7	4.2	
思考・判断・表現	A 話すこと・聞くこと	63.9	61.6	59.8	2.3	4.1
	B 書くこと	71.1	69.2	68.4	1.9	2.7
	C 読むこと	75.0	72.0	70.7	3.0	4.3
記述式	66.9	65.5	64.6	1.4	2.3	



#### ○【全体】

・すべての領域等において、全国・県平均を上回っている。  
 ・児童一人一人がどのような資質・能力を働かせるか意識して学習を進められるよう、言語活動を工夫する必要がある。

#### ○【知識・技能】

・話し言葉と書き言葉の違い、情報と情報の関係の理解などは正答率が高く、学習の成果が出ていたが、主語と述語の関係をとらえることに課題がある。日頃より主語と述語の関係を意識して文章を読むことができるように指導していく。

#### ○【話すこと・聞くこと】

・目的や意図に応じて話題や内容を検討すること、また資料を活用して自分の考えをわかりやすく伝えるための工夫等に課題がある。授業だけでなく、学校行事など学校生活の様々な場面で意識して取り組んでいけるよう指導していく。

#### ○【書くこと】

・記述式の無回答率は改善している。今後、目的や意図に応じて自分の考えが伝えられるようにするための書き表し方を工夫する必要がある。そのためにも、文章を書く際には、事実と感想、意見とを明確に区別することができるようにする指導の充実が大切である。

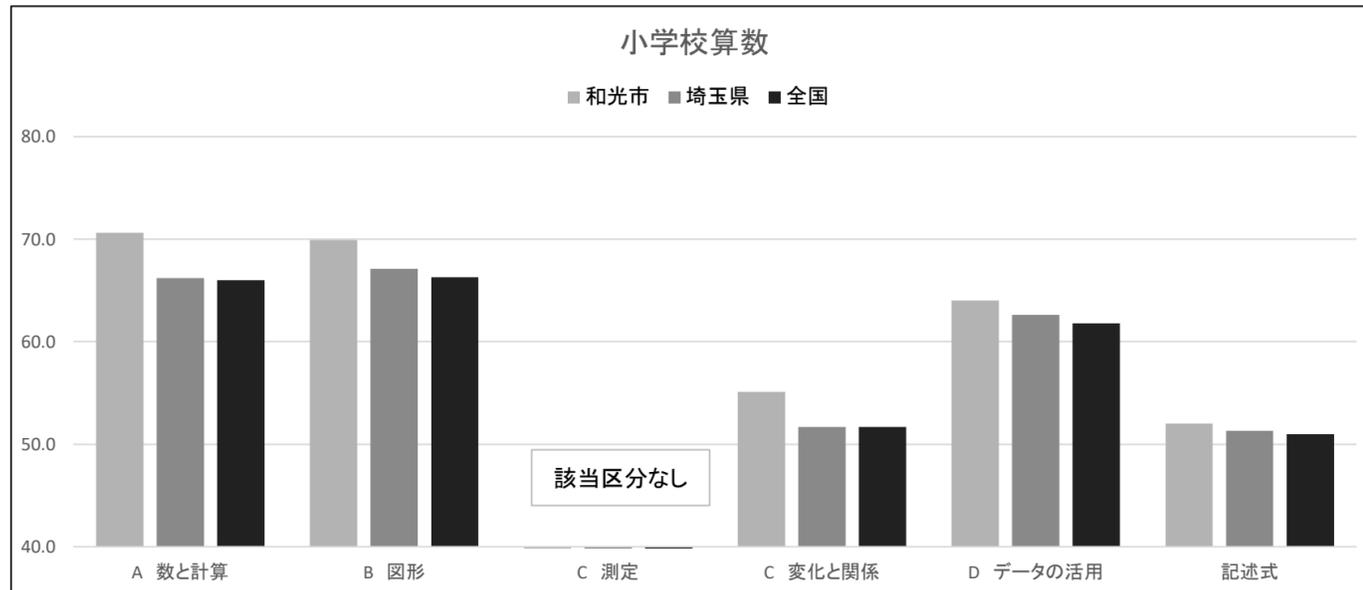
#### ○【読むこと】

・物語の登場人物の相互関係や心情などについてとらえること、表現の効果を考えることはよくできていた一方で、無回答率が若干高かった。読むことと書くこととの関連を図った指導を意識的に行っていく必要がある。

〈小学校算数〉

平均正答率(単位%)

学習指導要領の領域等での区分	和光市	埼玉県	全国	県差	全国差
A 数と計算	70.6	66.2	66.0	4.4	4.6
B 図形	69.9	67.1	66.3	2.8	3.6
C 測定	-	-	-	-	-
C 変化と関係	55.1	51.7	51.7	3.4	3.4
D データの活用	64.0	62.6	61.8	1.4	2.2
記述式	52.0	51.3	51.0	0.7	1.0



○【全体】

- ・すべての領域で、全国・県平均を上回っている。
- ・考えをさらに深めていけるよう、日常生活と絡めながら、習得した知識・技能を活用できるようにしていく。

○【A数と計算】

- ・求め方や答えを、式や言葉にするような、思考力・判断力・表現力を問う問題への対応に課題があることから、単に計算した答えを求めさせるだけでなく、問題解決の過程や理由などを意識させる指導をさらに積み重ねていく。

○【B図形】

- ・基礎的・基本的な技能は身に付いており、概ね高い正答率であった。しかし、より深く理解することや知識の活用には課題がある。図形を構成する要素を見出し、活用できるように指導することが必要である。

○【C変化と関係】

- ・速さの問題では、速さと道のりと時間の関係からとらえる基本的な考え方は身に付いているが、速さの意味について理解することに課題がある。単位量当たりの大きさの意味や表し方を理解するとともに、場面や目的に応じて比べ方を考察したり日常生活に生かしたりすることができるように指導を工夫する必要がある。

○【Dデータの活用】

- ・グラフや表から必要な情報を取り出すことはよくできているが、その情報から条件に当てはまることを記述することに課題がある。日頃よりデータを活用する経験を意図的にさせるとともに、他教科との関連を意識し、教科横断的にデータを活用できる力を育てていく必要がある。